

■ 取締役会長メッセージ

取締役会長メッセージ



2016年6月

取締役会長
常石 哲男

持続的な成長に向けた攻めのガバナンスを追求 重要な業務執行の意思決定と監督機能を両立させる

米国で起きた会計事件を契機に2001年以降「コーポレートガバナンス」という言葉が重要性を増してきました。昨年は日本でも「コーポレートガバナンス・コード」が、プリンシプルベースにて制定され、上場企業はコードが推奨するすべての項目について、各企業の考え方や具体的な施策、また今後の方針などを「Comply or Explain」方式にて説明することが義務付けられました。当社のウェブサイトにおいても、その内容を公開しておりますので、すべてのステークホルダーの皆さまに一度ご参照いただけましたら幸いです。

当社は、世界最先端のエレクトロニクス・半導体産業界において、世界レベルの競争力を維持し、短中長期的な視点に立って株主価値を大きく向上させ、さらなる成長を実現していくことを目指しています。その実現を支えるコーポレートガバナンスのあるべき姿とは、その時々の世界情勢や参入市場の環境変化などに鑑み、最善の議論と意思決定を適時に行うことのできる取締役会や業務執行体のマネジメント体系のすべてが構築されていることだと考えます。つまり、コーポレートガバナンスの基本とは、企業価値向上を最速で実現するための基本的なしくみであると理解しています。さらに当社はそのしくみ論のみではなく、創業以来大切に誇りとしている「社員が夢と活力に満ち、すべてのステークホルダーに対してフェアで誠実である」という企業文化の維持も重視しています。この点は、当社のコーポレートガバナンスの特筆すべき要素の一つです。

当社は、日本では他社に先駆けて、取締役会の内部委員会として独立性の高い指名委員会、報酬委員会を設置しています。また、取締役会とは独立した5人の監査役から構成する監査役会も設置しており、高度のガバナンス体系を確立しています。取締役会の構成においても、半導体とディスプレイ業界の特殊性から要求される専門的知識を有する業務執行取締役、それらの業務執行を監督・支援する当業界での経験豊富な非業務執行取締役に加えて、当社の参入業界に限らず他社での豊富な経営経験を持った社外取締役に招いています。昨今注目されている多様性も踏まえたユニークさを持ちつつ、同時に強いガバナンスの働く取締役会であると考えています。

今後も、取締役会会長として、適時適切な業務執行・監督を遂行できる最適なガバナンスの維持・推進と、活発な議論と迅速な意思決定を重視し、より高い実効性をもつ取締役会になるよう努力していきたいと考えています。

Sustainability